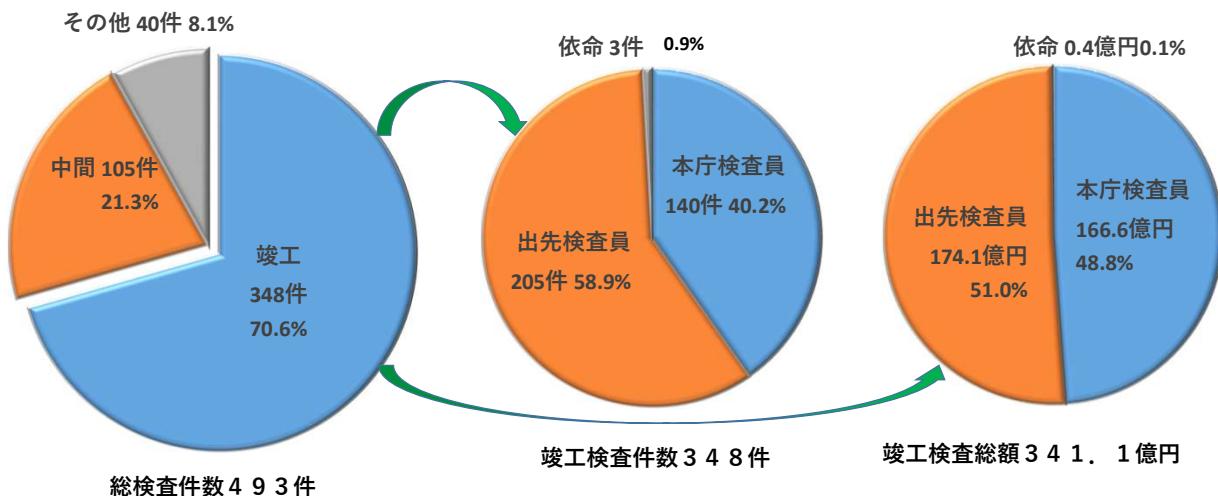


◇令和7年度上半期の工事検査実績は次のとおりです。

◇データ集計期間は、令和7年4月1日から令和7年9月30日までです。

1 実績／全体

① 検査件数（検査区分別・検査員別）

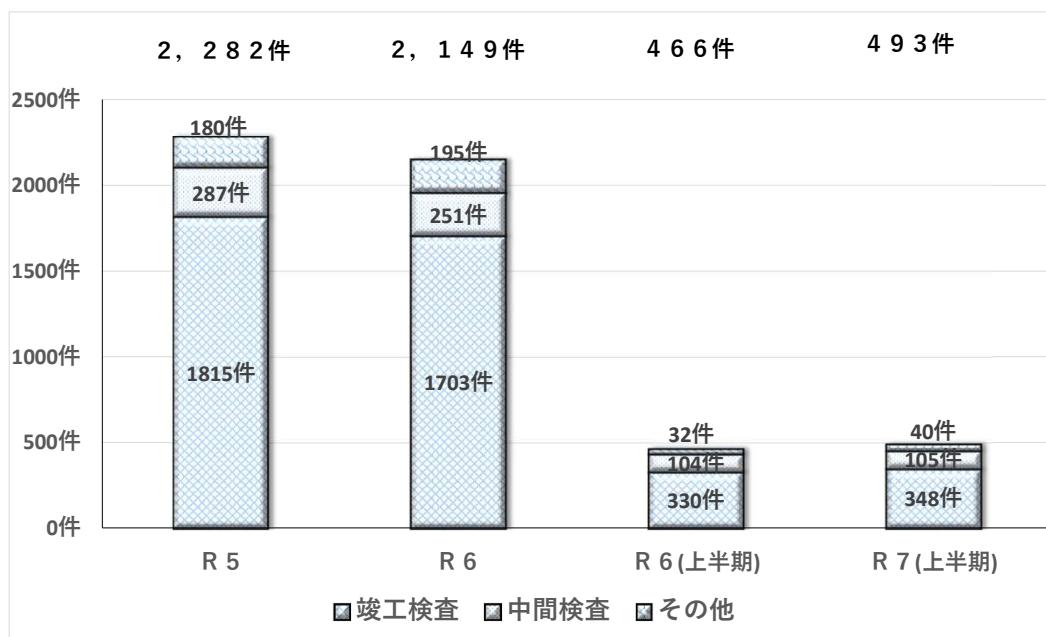


◇ 令和7年度上半期の総検査件数は493件でした。うち、竣工検査は348件（70.6%）、中間検査は105件（21.3%）でした。

なお、「その他」の分類には「一部竣工検査」及び「既済部分検査」が含まれています。

竣工検査の内訳は、本庁検査員検査が140件（40.2%）、166.6億円（48.8%）、出先検査員が205件（58.9%）、174.1億円（51.0%）でした。

② 3年間の検査件数の推移

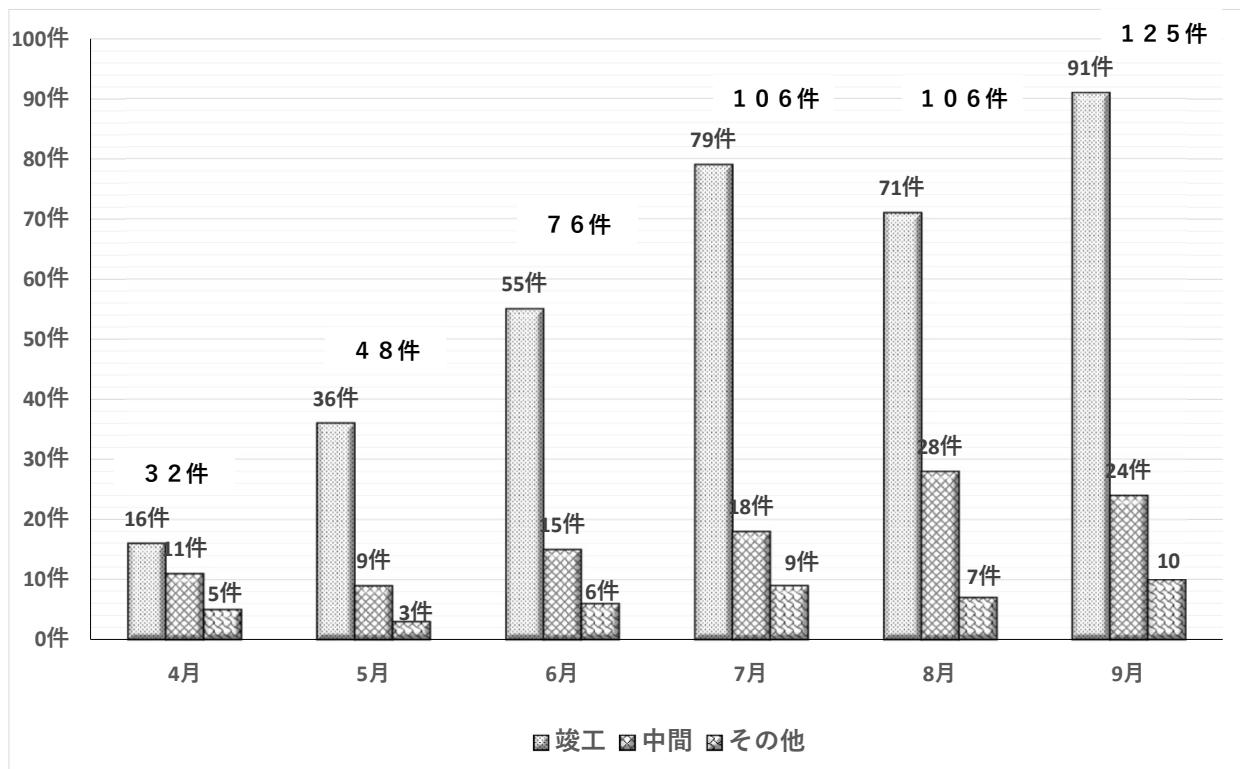


◇ 令和7年度上半期の総検査件数は493件となり、令和6年度上半期466件と比較して27件増加（5.8%増）しました。

竣工検査は348件となり、前年度同期より18件増加（5.5%増）しました。

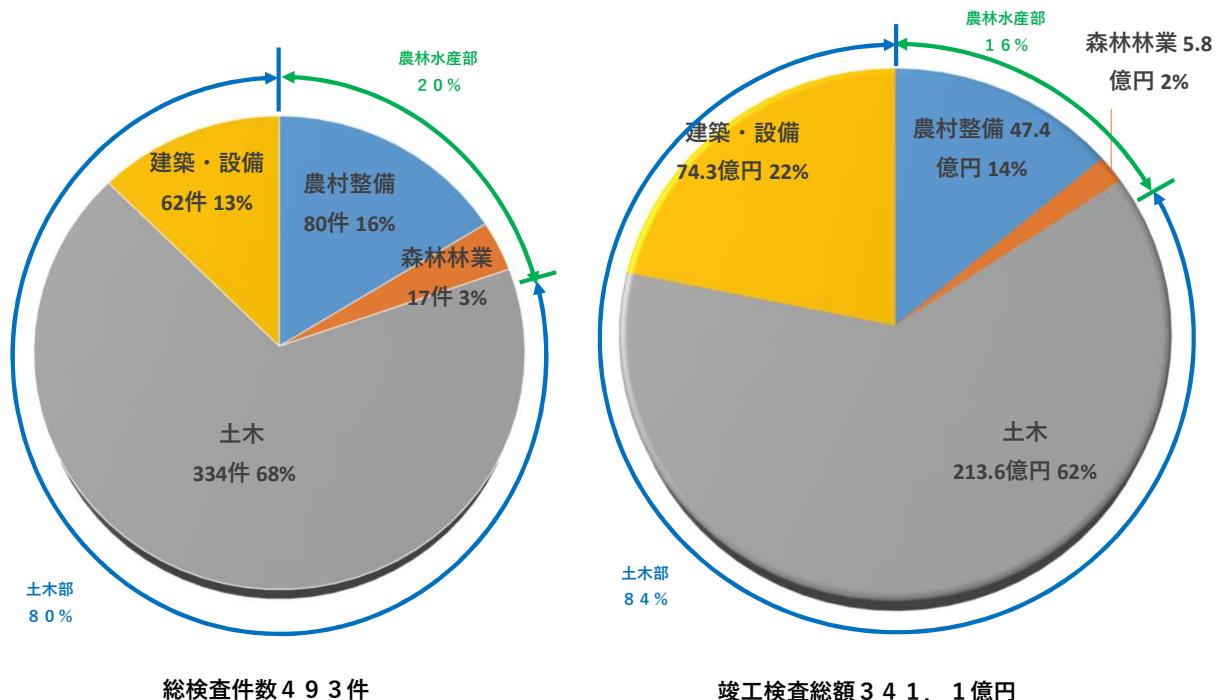
中間検査はほぼ前年度並みの105件、その他の検査は40件でした。

③ 月別の検査件数



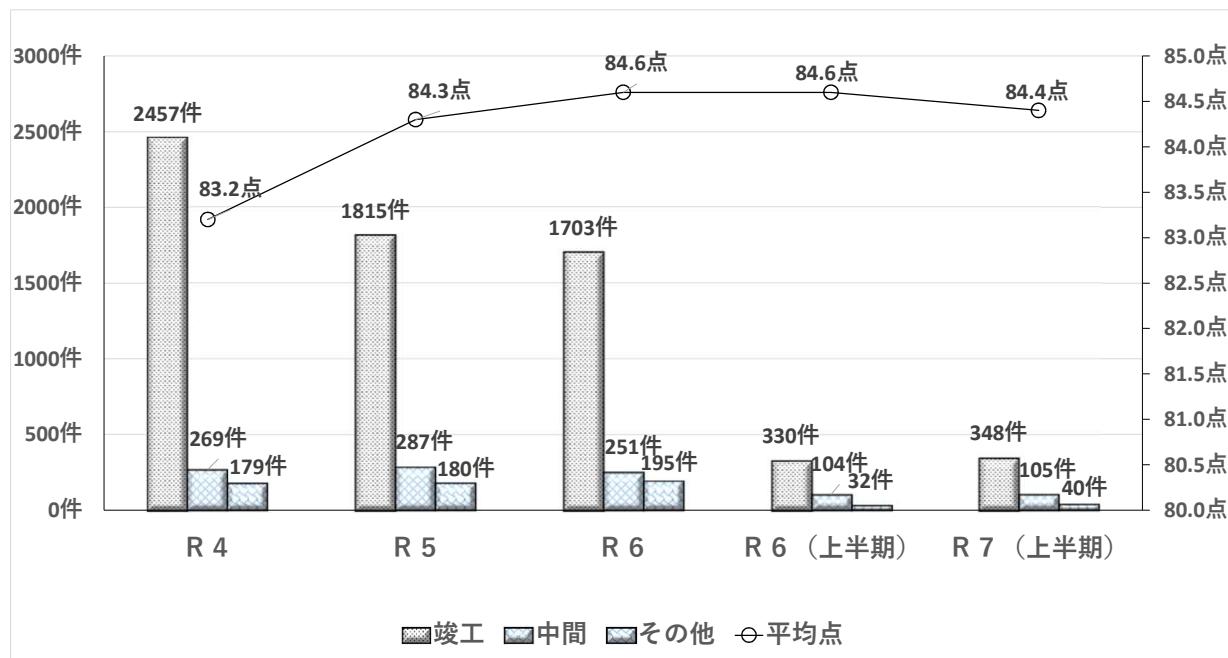
◇ 令和7年度上半期月ごとの工事検査件数は、4月が最も少なく32件、9月が最も多く125件、中間検査件数は、8月が最も多く28件でした。

④ 竣工検査件数の内訳（発注者区分・金額）



◇ 検査件数は土木部(土木、建築・設備)で80%、農林水産部(農村整備、森林林業)で20%、竣工検査総額では、土木部(土木、建築・設備)で84%、農林水産部(農村整備、森林林業)で16%でした。

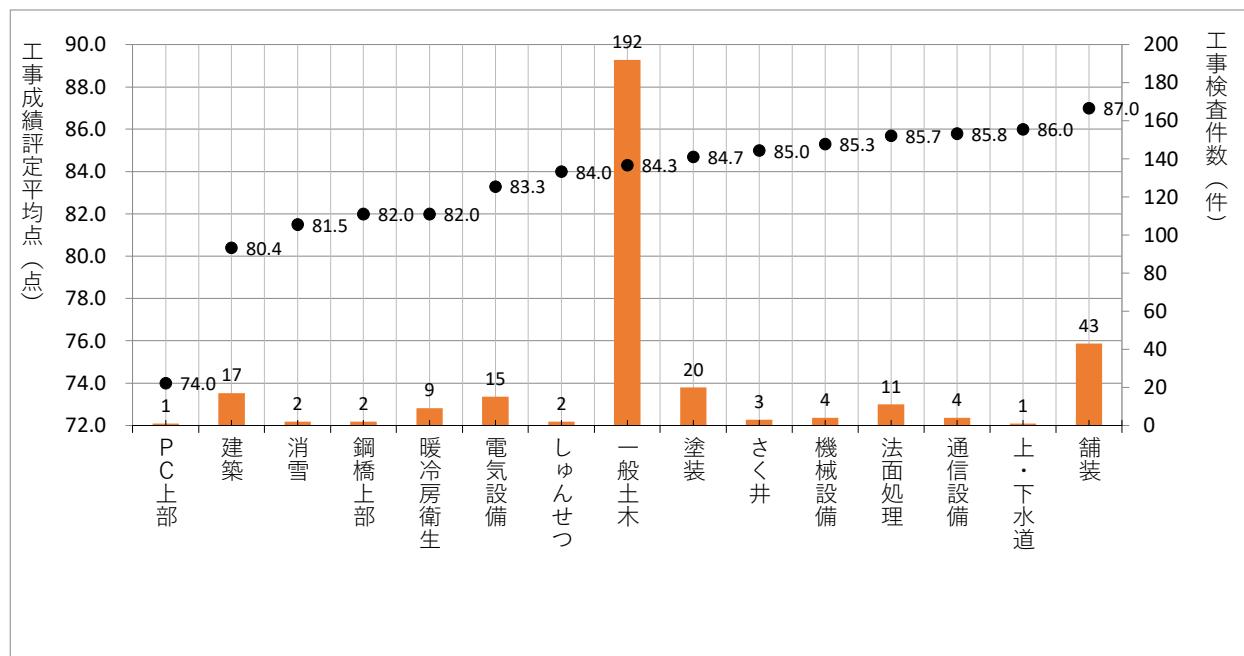
⑤ 工事成績平均点の推移



◇ 工事成績評定の平均点は、令和4年度83.2点、令和5年度84.3、令和6年度が84.6点となっており、令和7年度上半期の工事成績評定の平均は84.4点で、前年度同期と比べ0.2点低くなっています。

⑥ 工種別平均点

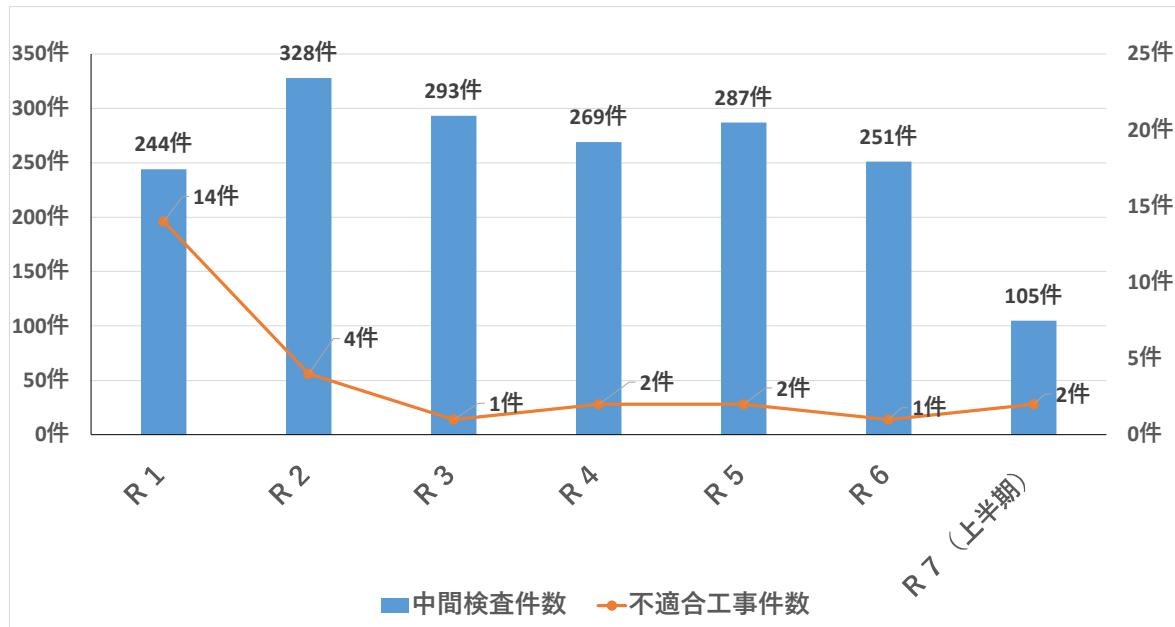
工種	PC上部	建築	消雪	鋼橋上部	暖冷房衛生	電気設備	しゅんせつ	一般土木	塗装	さく井	機械設備	法面処理	通信設備	上・下水道	舗装	計
平均点	74.0	80.4	81.5	82.0	82.0	83.3	84.0	84.3	84.7	85.0	85.3	85.7	85.8	86.0	87.0	84.4
件数	1	17	2	2	9	15	2	192	20	3	4	11	4	1	43	326



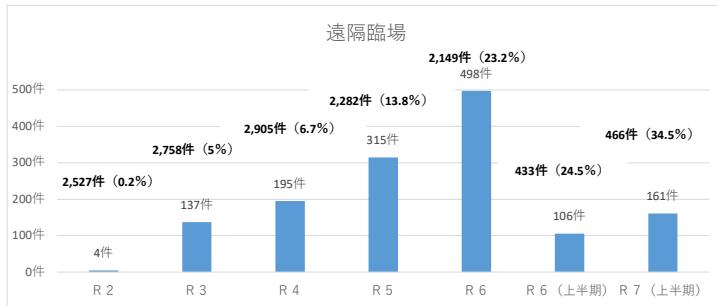
◇ 全体の平均84.4点に対して、工事件数の多い工種の順に、一般土木84.3点、舗装87.0点、塗装84.7点、建築80.4点、電気設備83.3点となっています。

2 令和7年度上半期検査結果（まとめ）

- 令和7年度上半期の検査件数は、493件で前年同期比で27件（5.8%）増加しました。
内訳は、竣工検査は348件（330件）で18件増、中間検査105件（104件）で1件増、一部竣工検査15件（20件）で5件減、既済部分検査25件（12件）で13件増となりました。
※（ ）書は令和6年度上半期
- 令和7年度上半期における竣工検査の工事成績評定平均点は84.4点で令和6年度上半期84.6点と比べ0.2点低くなりました。
- 令和7年度上半期において不適合工事が2件発生しました。
その内容については、ホームページで情報提供しています。



- 工事検査課では、令和2年度からインターネット双方向通信による遠隔臨場検査を実施しています。



令和7年度上半期では161件実施し、昨年度同時期と比べ55件増加しています。

3 発注者・受注者の皆様へ

- 皆様には、日頃より円滑な工事検査の実施にご協力いただきありがとうございます。
工事検査課では「**工事検査の適正かつ厳正な実施**」並びに「**円滑で効率的な工事検査の実施**」を目標として、令和7年度の工事検査に取り組んでいるところです。
引き続き、建設工事の適正な履行を確認するとともに、安全で高品質な公共施設を提供するため適正かつ厳正な工事検査を実施していきます。
- 品質確保のためには、工事施工段階での確認や指導が有効な手段であることから、**中間検査の活用**促進に努めるとともに、引き続き工事成績評定の客観性、透明性、公平性の向上に取り組んでいきます。
- さらに、効率的な検査実施に向けては、現場・書類ともに時間短縮効果が高い「**遠隔臨場検査**」を積極的に実施してまいります。

◇ また、上半期の検査実績を踏まえ、検査を実施する立場から気づいた日々の現場監督・現場の管理運営にあたって留意すべき点について、以下に記載しましたので参考にしてください。

- ・設計図書の内容を理解し、設計図書（特に図面）と現場が整合しているかよく確認する。
- ・元請けの現場代理人、技術者は現場の状況をしっかりと把握し、下請け任せにならないようにする。
- ・発注者（監督員）と受注者（現場代理人）は現場管理におけるコミュニケーションを大切にし、変更の有無や工程の進捗について情報の共有に努める。
- ・現場経験が浅い技術者については、上司や熟練者が積極的にサポートするよう努める。
- ・竣工検査では、自信を持って工事目的物を説明出来るよう現場と竣工書類の内容をよく確認する。